

でも、「データベース」って何だっけ？ わかると便利！構築前の基礎知識



顧客の特性や商品の売れ行き状況をつかみ、ヒット商品の企画や的確な品揃えをする。その分析や判断のためにデータベースの導入を薦められたことはないだろうか。

ただ「データベース」とよく口にはするものの、それが指す内容は時と場合によって違っていたりする。社内で各種情報を十分に活用できる体制をつくるには、具体的な製品導入の前に、一度システム構築時の会話で使用される「データベース」に



関係して基本的な事項を理解しておくことだ。ここでは中小規模企業に最適なデータベース製品を発売しているアイエヌエア・ソリューション

ソリューションの解説で、「データベースとは何か」を整理しておく。

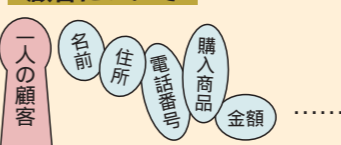
データを一定の観点で整理し取り出しやすいように保管

顧客の名前、住所、電話、品目ごとの売上個数など、社内には様々な項目や数値が発生する。この一つひとつが「データ」だ。データはある視点で捉えることで、それらは有益な「情報」となる。データを必要とときに取り出しやすくするには一定の規則にしたがって保存しておくのがよい。

個人の電話帳なら手書きで五十音順にリストを作っても特定の情報を見つかるのにさほど時間を要しないだろうが、100万件の売上データからある情報だけを調べたい場合、人間が1件ずつ探すのでは莫大な時間が必要になる。そこで、会社の売上情報のように数量

社内にはデータがあふれている！

顧客について



データを整理すれば、どんな人が何を購入しているかわかるな！

店舗の売上

- ・X店では昨日商品Aが10個売れた
- 商品Bは20個売れた
- ・Y店では.....

店ごと、商品ごとの売上個数を整理すれば、各店舗の販売状況がわかるな！



会社では大量のデータを複数の人が扱うから、いつでも快適に処理できることが望ましい。そのためにはデータベースを導入してデータ処理の効率や高速性を高めるべきだ。

が多く様々に活用したいデータは、コンピューターを使って管理する。この際、データをコンピューターが処理できる形式にして保管し、必要に応じて取り出せるようになる仕組みがデータベースなのである。

紙の一覧表と違って顧客リストから北海道に住んでいる人を一覧表示したり、5万円以上の購入実績を持つ顧客をリストアップするのもあつという間に行える。また、経営分析用のソフトウェアや業務アプリケーションの要請に応じて必要なデータを取り出し

て渡すのもデータベースの仕事だ。つまり、データベースは、会社の情報を扱う中心基地としての役割を担っているのである。

企業規模に関わらず求められる本格データベース

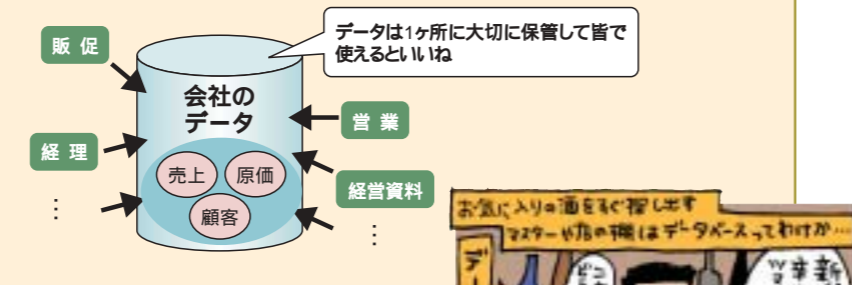
では、どのようなデータベースを導入すると良いのだろうか。

企業の規模とデータの取扱量は必ずしも比例しておらず、従業員10名ほどの企業が数万人の顧客データを扱うということもよくある。経営の中でデータの活用が果たす役割が大きいなら、一定レベルの機能・性能を備えたデータベースを選びたい。ただITの専門管理者がいなくても中小規模企業においては、「難しい製品は使いこなせないのでは？」という懸念もあるだろう。

そこでお勧めなのがアイエヌエア・ソリューションズのデータベース「SQL Anywhere Studio」である。使いやすさに配慮した同製品は、ITの専門家が不在の企業でも導入が可能。また高価なハードウェアがなくて

データを使うための仕組みがデータベース！

データはコンピューターに保管して皆でいろいろに使いたい

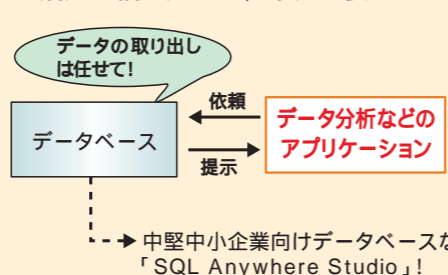


データをコンピューターに格納して活用するためには「データベース」が必要



入力・削除の管理
データの矛盾がないかチェック
たくさんの方がアクセスしても問題がおきないよう管理
検索など、要望に応じた指示を出し結果を得る など

活用の幅が広がり、業務に役立つ



データベース製品案内

中小規模企業のビジネスに最適なデータベース

「SQL Anywhere Studio」

(エスクーエル・エヌウェア・スタジオ)

高価なハードウェアを買うのはちょっと... ITの専門管理者がいらない
という企業でも、導入できる！



SQL Anywhere Studio (Windows版)基本パッケージ
92,000円(税込)

お問い合わせ先
アイエヌウェア・ソリューションズ株式会社
千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル
電話 03-5210-6380
URL : http://www.iAnywhere.jp